

製品名: MDMX (リン酸化 Ser367) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04992**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	MDM4
別名	MDM4; MDMX; Protein Mdm4; Double minute 4 protein; Mdm2-like p53-binding protein; Protein Mdmx; p53-binding protein Mdm4
遺伝子 ID	4194.0
SwissProt ID	O15151
免疫原	抗血清は、Ser367 のリン酸化部位周辺のヒト MDM4 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 336-385

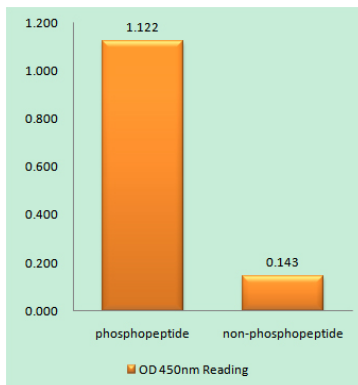
背景

この遺伝子は、N末端にp53結合ドメイン、C末端にRINGフィンガードメインを持つ核タンパク質をコードし、p53結合タンパク質MDM2と構造類似性を示す。両タンパク質はp53腫瘍抑制タンパク質に結合してその活性を阻害し、様々なヒト癌で過剰発現することが示されている。しかし、p53を分解するMDM2とは異なり、このタンパク質は転写活性化ドメインに結合してp53を阻害する。また、このタンパク質はRINGフィンガードメインを介してMDM2タンパク質と相互作用し、後者の分解を阻害する。そのため、このタンパク質は、p53のトランス活性化とアポトーシス機能の抑制を維持しながら、MDM2を標的としたp53の分解を逆転させることができる。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが知られている。[RefSeq提供、2011年2月]、代替製品：追加のアイソフォームが存在すると思われる、ドメイン：領域Iはp53に結合し、G1期停止およびアポトーシス機能を阻害するのに十分である。また、p73にも結合する。領域IIは、中央の酸性領域の大部分と、推定C4型ジンクフィンガーを含む。2分子の亜鉛を配位するRINGフィンガードメインは、MDM2とのヘテロオリゴマー形成を媒介する。機能：転写活性化ドメインに結合することにより、p53およびp73を介した細胞周期停止およびアポトーシスを阻害する。MDM2の分解を阻害する。p53のトランス活性化とアポトーシス機能の抑制を維持しながら、MDM2を標的としたp53の分解を逆転させることができます。質量分析: PubMed:11840567、類似性:MDM2/MDM4ファミリーに属します。類似性:RanBP2型ジンクフィンガーを1つ含みます。類似性:RING型ジンクフィンガーを1つ含みます。類似性:SWIBドメインを1つ含みます。サブユニット:p53、p73、およびMDM2に結合します。組織特異性:テストしたすべての組織で、胸腺に高レベルに存在します。、

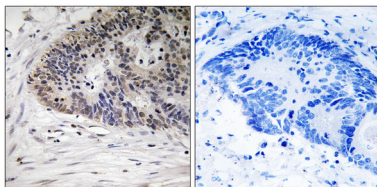
研究分野

p53;

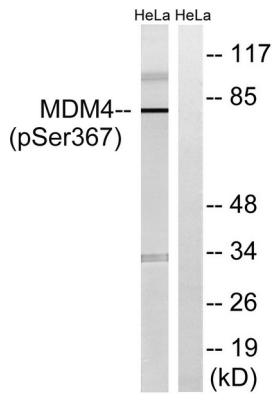
画像データ



MDM4 (リン酸化 Ser367) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



MDM4 (リン酸化 Ser367) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



カリキュリン A 50 ng/ml 30分処理した HeLa 細胞ライセートの MDM4 (リン酸化 Ser367) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。